

中国語を変えた日本語：和製漢語

ミシガン大学物理学部 劉 蘭個川 (リユー ランコセン)

みなさん、こんにちは。ミシガン大学の劉と申します。私のスピーチのテーマは、日本人によって発明された漢字の言葉、和製漢語、そして、その和製漢語が英語の国アメリカでどのように役に立っているかについてです。よろしくお願いします。

皆さんは、ワイシャツ、テレビゲームといった言葉が「和製英語」だということをご存知だと思いますが、では、「和製漢語」という言葉を聞かれたことはありますか。

和製漢語というのは、日本で漢字を使って作り出された言葉、例えば、「自転車／野球／電気／病院」など。漢字で書くから中国から来た言葉のように見えますが、実は日本で作られた言葉で、中国語ではありません。

和製漢語のルーツですが、およそ百年前、日本が文明開化の時期を迎えた時、欧米から多くの物や知識が入ってきました。その時、異文化に懐の深い日本人は、漢字の知恵を生かして、新しい知識や概念を表す言葉を作り上げました。それが和製漢語です。郵便局、図書館、経済、法律、資本主義…このような新しい言葉が数えきれないほど多く作られました。その後、和製漢語は漢字の本家、中国に逆輸入され、今現在、なんと中国語の三割以上の言葉を占めています。面白いですね。とりわけ、中国語の自然科学と社会経済についての言葉の六割以上は和製漢語です。

日本人が作った漢字の言葉、和製漢語は中国語を大きく変えました。なぜ中国でも、和製漢語がそんなに普及したのでしょうか。その理由は当時の中国語の書き言葉、つまり漢文の不便さと和製漢語の便利さにあります。これについて、一つ例を上げましょう。英語のPsychologyという学問がありますね。Psychologyは明治時代に漢字を使って、「心理学」と訳されました。「人間の心を理解する学問」、漢字を見るだけで意味がすぐ分かるでしょう。この便利さの故、多くの中国の作家は和製漢語を武器にして文章を書き、旧制度に縛られた漢文と戦いました。その先駆者の一人が、中国で一番尊敬されている近代作家、LUXUN、魯迅です。魯迅先生は日本への留学生でした。

私は日本人が漢字の力を活用し、こんな便利な言葉を生み出したのは、日本人の独特な哲学のおかげだと思います。歴史を振り返ってみると、日本人はただ他の国の物を取り入れるだけでなく、自分の文化と風俗にうまく融合させ、さらに質の高い物を作り出してきました。中国の茶文化を取り入れて茶道に発展させ、ラーメンを取り入れてインスタントラーメンを発明しました。そして、漢字を取り入れ、日本語の柔らかい発音に相応しいひらがなを育みました。

さて、みなさん、以上の私の話を聞いて、てっきり私は文学の学生だと思う方がい

らっしゃるでしょう。でも、私は一度も日本に行ったことがなく、専門は物理で、今は放射線を使ったガンの治療に関わる研究をしています。

2年前、物理学部を卒業した私は、大学院に入って医療工学の研究を始めました。科学研究では分野によって専門用語がかなり違います。始めて医療工学の英語論文を読んだ時は、知らない言葉ばかりでショックでした。それで、中国語の論文を読んで、速く概略をつかもうとしたんですが、中国では医療工学の研究が遅れているために、なかなかいい論文がみつかりません。その時、助けられたのが、日本語の論文でした。英語の専門用語は一見ただけで分かりませんが、日本語論文の中の和製漢語はすぐに意味が把握できます。その時、私は本当に日本語ができて良かった、と心の底から感じました。そんなわけで和製漢語は文系の学者だけではなく、理系の学者も助けているのです。

中国で発祥して、日本に伝わった漢字。その漢字に新しい命を注ぎ、中国語を蘇らせた和製漢語。漢字は日本と中国にとって、深い絆であります。現在の日中関係は決して望ましい状態とは言えませんが、歴史を振り返ると、最近の百年ほどの対立は、日中2千年近くの付き合いの中では一瞬にすぎません。両国の絆を取り戻すために、日本人も中国人も、もう一度漢字の存在を見直したらどうでしょうか。日中の共通文化である漢字の力を借りれば、私はきっと両国を隔てる溝を乗り越えられると信じています。

最後に、今日この場を借りて、もう一つ伝えたい事があります。皆さん、日本の大都市の中で、東京と京都を除いて、中国の学生の中で一番知られている都市はどこだと思いますか。答えは、今月大きな地震と津波に襲われた仙台市です。何故かという、先ほどお話しした魯迅が、百年ほど前に留学していた先は仙台市だったからです。もし魯迅が今生きていれば、彼はきっと筆をとって周りの人に呼びかけ、日本被災地の支援を訴えるでしょう。僭越ではありますが、魯迅先生に代わり、日本の皆様に心よりお見舞い申し上げます。そして、日本語を学ぶ者として、日本の再びの復興を心より信じております。

以上です。ご清聴いただき、ありがとうございました。

2011年3月26日